



生涯発達心理学	単位数	履修方法	配当年次
	4	R or SR	1年以上
科目コード	FD2502	担当教員	中村 修

※2017年度より担当教員が変更になりました。教科書、レポート課題等もすべて変更されています。

※2017年度のオンデマンド・スクーリングは、別教員（木村進先生）が担当します。

■科目の内容

「人が発達する」とは、何がどうなることを言うのでしょうか？そして「人が発達する期間」はいつからいつまでなのでしょう？ さらに「人を発達させる要因」はどのようなものなのでしょう？ この科目では大きくこのような疑問に対して答えを探していくことになります。もちろん「生涯発達心理学」という科目名ですから発達する期間は「生涯、一生の間」と考えるわけですが、では生涯という視点で人を理解するとはどのようなもののでしょうか？「子ども」「大人」「高齢者」といった年齢区分ごとの理解に留まらず、「これまで・現在・これからのつながり」「積み重ね」を考えながら人を理解するということを考えてみましょう。

■到達目標

- 1) 「生涯発達」の意味を理解し、「発達は積み重ねである」という観点から自分の発達の経過を振り返ることができる。
- 2) 発達のそれぞれの段階/時期における特徴を理解し、学んだ概念を用いて自分および自分の周りにいる人々の姿・行動を説明することができる。
- 3) 発達をもたらす要因は何であるかについて理解し、教育や保育、育児における具体的な働きかけのあり方と留意点について考えることができる。

■教科書

坂上裕子・山口智子・林創・中間玲子著『問いからはじめる発達心理学－生涯にわたる育ちの科学』有斐閣、2014年

(最近の教科書変更時期) 2017年4月

■在宅学習30のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	発達するとはどういうことか① (1章-1)	発達とはどういうことと考えられてきたか キーワード：発達観、発達のゴール上昇の変化	発達とはどういうことかを理解するうえで、まず昔の発達心理学における発達の考え方を理解する。
2	発達するとはどういうことか② (序章、1章-2)	生涯発達はどういうことと考えられているか キーワード：バルテス、エリクソン、生涯発達、獲得と喪失、多次元性、多方向性、発達の可塑性	①現在の「生涯発達心理学」では発達をどのように考えているかを理解する。 ②昔の発達心理学における発達の考え方との相違点を明確にする。
3	発達するとはどういうことか③ (1章-3, 4, 5)	発達は何によってもたらされるか キーワード：遺伝的要因、環境的要因、相互作用、Bronfenbrenner、生態学的システム	①発達の要因として、遺伝と環境及びそれらの相互作用について理解する。 ②環境要因の下位区分について理解する。
4	胎児期 (2章)	胎児の特徴を学ぶ キーワード：五感の発達、胎児運動、出生前診断	①母親の胎内にいる間に胎児にはどのようなことができるようになっているのか理解する。 ②胎児にとっての主たる環境要因となる母親に生じる変化について理解する。
5	ピアジェの発達理論 (3章-1)	ピアジェの発達理論について理解する。 キーワード：ピアジェ、シュマ、感覚運動期、前操作期、具体的操作期、形式的操作期	代表的な発達理論の1つであるピアジェの発達理論について、 ①基本的な用語を理解する。 ②設定された発達段階の特徴について理解する。
6	乳児期① (3章-2, 3)	認知機能の観点からの乳児期の発達の理解 キーワード：目と手の協応、選択注視法、馴化-脱馴化法、対象の永続性、社会性	①ピアジェによる感覚運動期の説明に基づいて乳児期の発達を理解する。 ②乳児に対して用いられる心理学研究方法を理解する。
7	乳児期②：乳児-養育者間コミュニケーション (4章-1, 2)	対人関係の観点からの乳児期の発達の理解 キーワード：ベビースキーマ、生理的微笑、社会的微笑	乳児と養育者の双方の対人関係形成の基盤について理解する。
8	乳児期③：アタッチメントの発達 (4章-3, 4)	アタッチメントの発達の理解 アタッチメント、分離不安、安全基地、ストレンジ・シチュエーション、気質、基本的信頼感	アタッチメントの発達について、 ①アタッチメントとは何か ②アタッチメントの発達の流れ ③アタッチメントの個人差について理解する。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
9	幼児期①： 言葉と表象 (5章-1, 2, 3)	言葉の発達の基盤についての理解 キーワード：表象, ごっこ遊び, 喃語, 共同注視, 初語, 統語, 外言, 内言	①ことばの発達のプロセスについて理解する。 ②言葉が発達するためには何が必要となるのか理解する。 ③言葉の発達と思考の発達の関係を理解する。
10	幼児期②： 遊びの発達 (5章-4)	遊びの発達についての理解 キーワード：機能遊び, 象徴遊び, 並行 遊び, 連合遊び, 協同遊び	①ことばの発達と遊びの発達の共通の 基盤を理解する。 ②遊びの発達の流れ, 遊びの変遷を理解 する。
11	幼児期③： 自己の発達 (6章-1, 2, 3, 4)	自己の発達の理解, 特に自己の芽生えに ついて キーワード：自己感覚, 自己, 主体, 客 体, 第一次反抗期, 自己主張期, 概念的 自己	①自己の芽生えとはどういうことか理解 する。 ②自己にもさまざまな側面があること を理解する。 ③第一次反抗期が生じる理由について 理解する。
12	幼児期④： 自己制御の 発達 (6章-5)	自己の発達の理解, 特に自己制御につい て キーワード：自己制御, 自己主張, 自己 抑制, 文化差, しつけ, 発達期待	①自己制御の発達について理解する。 ②自己制御の個人差とそれに影響する 要因について理解する。
13	幼児期⑤： 社会性の発 達と心の理 論 (7章-1, 2)	社会性の発達の理解, 特に他者の意図の 理解について キーワード：心の理論, 誤信念課題, う そ, 道徳的判断, コールバーグ, 共感 性, 向社会的行動, 実行機能	①心の理論とはどういうことか理解す る。 ②道徳的判断の発達について理解す る。 ③共感性の発達について理解する。
14	幼児期⑥： 社会性の発 達, 仲間関 係 (7章-3)	社会性の発達, 特に同年代関係について キーワード：ギャング・グループ, 社会 的比較, ねたみ	仲間(同年代他者)との関係の中でみ られる社会性の発達を理解する。
15	前半の振り 返り	①発達の主要理論についての整理②胎児 期から幼児期までの発達のまとめ	①バルテス・ピアジェ・エリクソンな ど繰り返し触れられる発達理論につい て, 対比的に理解する。 ②胎児期から幼児期までを, 時期ごと ではなく1つの流れとして「どんなこ とがどう変わっていくのか」という観 点で整理する。 ③胎児期から幼児期まで, 子どもに関 わる他者がどのような点で重要なのか 整理する。
16	児童期①： 子どもと学 校 (8章-1)	児童期の認知機能の発達, 特に脱中心化 という観点から キーワード：前操作期, 自己中心性(中 心化), 保存課題, 3つ山課題, 脱中心 化, 具体的操作期	①ピアジェ理論に基づき, 児童期の思 考の発達の特徴について理解する。 ②自己中心性及び脱中心化について理 解する。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
17	児童期②： 認知機能の 発達 (8章－2, 3, 4)	児童期の任里機能の発達, 特にメタ認知 という観点から キーワード：短期記憶, 長期記憶, ワー キングメモリ, 動機づけ, メタ認知	①記憶の仕組みについて理解する。 ②動機づけの種類について理解する。 ③メタ認知とは何か理解する。
18	青年期の発 達①：自己 認知 (9章－1, 2)	青年期の発達の理解, 特に青年期初期の 自己理解の変化という観点から キーワード：第二次性徴, 思春期スパ ート, 自己理解, 自我体験, 時間的展望, 青年期の自己中心性	①青年期における身体的変化の特徴に ついて理解する。 ②自己に対する視点の持ち方と自己否 定的感情の高まりについて理解する。
19	青年期の発 達②：友人 関係 (9章－3, 4)	青年期の発達の理解, 特に同年代他者と の関係から キーワード：友人関係, 関係性攻撃, 恋 愛	①友人関係の発達について理解する。 ②友人関係が自己理解, 自己形成にど のように影響するか理解する。
20	青年期の発 達③：親子 関係 (9章－5)	青年期の発達の理解, 特に異年代との関 係から キーワード：心理的離乳, 脱衛星化, 自 立, 対立的関係, 分離と統合	青年期における親子関係の変化につ いて, ①心理的離乳という概念を理解する。 ②親子関係の変化を「対立的」とのみ 捉えてよいか, よくない場合にはどの ようなとらえ方が可能なのか理解す る。
21	青年期から 成人期へ ①：アイデ ンティティ の発達 (10章－1, 2)	青年期の発達の理解, 特にアイデンティ ティの形成という観点から キーワード：エリクソン, アイデンティ ティ, モラトリアム, マーシャ, アイデ ンティティ地位	①エリクソンの言説に基づき, アイデ ンティティと何かを理解する。 ②マーシャの「アイデンティティ・ス テイタス論」に基づき, アイデンティ ティの形成プロセスについて理解す る。 ③成人期以降のアイデンティティの変 化について理解する。
22	青年期から 成人期へ ②：キャリ アの選択 (10章－3)	成人期前期の発達の理解, 特にキャリア という観点から キーワード：やりたいことへのこだわ り, キャリア, 主体的形成	キャリア形成という観点から「青年期 から成人期への移行」について理解す る。
23	成人期初期 (10章－4, 5)	成人期前期の発達の理解, 特に家庭生活 という観点から キーワード：晩婚化, 非婚化, ライフ コース, 性役割観, ライフイベント	ライフコースの選択と見直しという観 点から成人期前期の発達, 及びその時 代的変遷について理解する。
24	成人期中期 から後期 ①：世代性, 職業・キャ リア発達 (11章－1, 2)	成人期中期以降の発達についての理解, 特にキャリア発達の観点から キーワード：世代性, アイデンティティ 再体制化, メンタリング	成人期中期以降の発達の变化につい て, ①アイデンティティの再体制化とは何 か ②世代性とは何か を理解する。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
25	成人期中期から後期：親として、子としての発達 (11章－3, 4, 5)	成人期中期以降の発達，特に親役割の変化という観点から キーワード：養護性，親の成長，子どもの自立，夫婦関係の見直し，子育て不安，介護，ジェネレイショナル・ケア，親役割	成人期中期以降の発達の变化について， ①親であり配偶者であり子どもでもある自己の変化 ②子どもと配偶者と親との関係の変化を理解する。
26	老年期①：老いの意味と認知機能の変化 (12章－1, 2)	老年期の発達の理解，特に認知機能について キーワード：エイジズム，流動性知能，結晶性知能，超高齢期，補償，最適化，知恵	①エイジズムとはどういうことか理解する。 ②知能の発達の变化について理解する。 ③認知機能の補償とは何か理解する。
27	老年期②：パーソナリティの発達，サクセスフルエイジング (12章－3, 4, 5)	老年期の発達の理解，特に「人生の統合」という観点から キーワード：ライフレビュー，老年的超越，サクセスフル・エイジング，ソーシャルネットワーク，コンボイ，死生観	①老年期のパーソナリティの発達について理解する。 ②エリクソンの言う「統合対絶望」という心理社会的危機について理解する。
28	発達をつまづき① (13章－1, 2)	発達をつまづき，特に発達障害の理解 キーワード：発達障害，自閉スペクトラム症，ADHD，限局性学習症（学習障害），個別支援，環境調整，二次障害	①発達をつまづきとは何かについて理解する。 ②発達障害について理解し，基礎的な理解を図る。 ③発達障害の臨床・支援について理解する。
29	発達をつまづき② (13章 3, 4, 5, 6)	発達をつまづき，ある発達期に特徴的なつまづきの理解 キーワード：リスク要因，プロテクト要因，不登校，ひきこもり，反社会的障害，摂食障害，喪失，認知症，生活環境，可塑性	①発達期のそれぞれに特有のつまづきについて理解する。 ②発達の可塑性について理解する。
30	後半のまとめ	①発達の主要理論についての整理②児童期から老年期までの発達のまとめ	①バルテス・ピアジェ・エリクソンなど繰り返し触れられる発達理論について，後半の学びを含めて改めて対比的に理解する。 ②胎児期から老年期までを，時期ごとではなく1つの流れとして「どんなことがどう変わっていくのか」という観点で整理する。 ③発達をつまづきで理解したことを踏まえて，発達支援をする際の留意点をまとめる。

■レポート課題

1 単位め	発達とはどういうことか。発達に関する心理学が昔の「発達心理学」から現在の「生涯発達心理学」へと変わっていった経緯を踏まえつつ、現在の生涯発達心理学では発達をどう考えているか説明しなさい。
2 単位め	「脱中心化」という観点から、幼児期から児童期にかけての思考の発達について説明しなさい。 ※スクーリング受講者専用「別レポート」対象課題・web解答可
3 単位め	乳児期から幼児期の発達における「養育者一子相互作用」の重要性についてまとめよ。
4 単位め	「社会的関係の見直し」という観点から成人期の発達を説明しなさい。 ※スクーリング受講者専用「別レポート」対象課題・web解答可

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

(2016年度以前履修登録者) 2017年4月よりレポート課題が変更になりました。『レポート課題集2016』記載の課題でも2018年9月までは提出できますが、できるだけ新しい課題で提出してください。

■アドバイス

レポートを書き始める前に、教科書や参考書の該当する箇所をよく読んで理解しておくということが第一に重要です。課題に取り組む前に、少なくとも教科書については精読し、内容をつかんでおいてください。教科書及び参考書の中から必要な部分がどこかを考え、課題にそって構成を組み立てるという作業が必要です。教科書1つをとってもある事柄が説明されている箇所は1か所とは限りません。複数の説明を見比べて、それらの共通点または相違点はどうなるのかを考えてみると、「説明の抜書き」ではない「自分のオリジナルの説明」となるでしょう。そのためには、全体として何を書くかというストーリーを最初に描いておくことも大切です。

1単位め アドバイス

この課題は教科書の「1章」が中心となりますが、「序章」「12章2」なども踏まえる必要があります。

この課題では、発達についての考え方の変遷をふまえて、発達とはどのようなことなのかを説明することが求められています。科目名でもある「生涯発達心理学」ですが、人間の発達についての心理学が生まれた最初からこの名称だったのではなく、当初は「発達心理学」という「生涯」がつかない名称でした。そして「発達心理学」から「生涯発達心理学」へという名称の変化は、単に「生涯」をつけたかつかないかということにとどまらず、そもそも「発達とは何か、発達とはどのようなものか」という考え方が変わったのです。このことを踏まえて、過去に言われていた発達の定義はどのようなものか、その定義にはどのような問題点があったのかといった点を整理しながら、現在の生涯発達心理学で用いられている発達の定義・捉え方へと展開していくことが望ましい形式となるでしょう。

なお、教科書にも定義がありますが、他の文献も参照して、自分のじっくりくる説明を探してみましょう。また、いわゆる国語辞典に載っている「発達」の字義・定義と、心理学でいう（心理学辞典・事典に載っている）「発達」の定義を比べてみるのも「発達とはどういうことか、の考え方の違い」に気づききっかけになるかもしれません。

旧教科書の方は、「序章Ⅰ」「Ⅰ章Ⅱ、Ⅳ」を中心に、教科書以外から「バルテス」という生涯発達心理学者の発達の定義・とらえ方について調べて、レポートをまとめてください。

2単位め アドバイス

この課題は「3章Ⅰ」と「8章Ⅰ」が中心となりますが、「7章」なども踏まえる必要があります。

ピアジェは認知機能に関する発達段階説をまとめています。その発達段階の1つである「前操作期」に該当する子どもの思考・認知の特徴は「自己中心性」とされています。まずはこの「自己中心性」がいわゆる大人の「ジコチュー」と同じことなのかどうか、この時期の子どものどんなことを自己中心性と言っているのか、整理してまとめてください。その上で、「脱中心化＝自己中心性から脱すること」にはどのようなことが必要なのか、自己中心性から脱して子どもの思考はどのような変化をみせることになるのかまとめてください。

説明していることを具体的に示す子どものエピソードなどが説明に盛り込まれると、とても分かりやすいレポートになるかもしれません。ただし、説明にかかわりなく子どもの姿だけが延々と述べられていても課題にこたえることにはなりません。エピソードを用いたり例を加えたりするなら、そうすることで説明がわかりやすくなるのかどうか、独りよがりの記述になっていないか注意して見直してください。

旧教科書の方は、「Ⅰ章Ⅲ」「4章Ⅰ」にてピアジェ理論の大枠をつかんだのち、「5章」を「認知・思考の発達の变化」に焦点をあてて読んでください。加えて教科書以外から「自己中心性」という概念について調べて、レポートをまとめてください。

3単位め アドバイス

この課題は「4章」が中心となりますが、「2章3」「13章3」なども踏まえる必要があります。

端的に言えば、この課題はエリクソンのいう「基本的信頼感対不信」という心理社会的危機の説明、ボウルヴィが提唱した「アタッチメント」概念の説明が中心になります。これだけでもレポートをまとめることは可能だと思いますが、それに加えて「乳児と養育者の関係形成の端緒」「関わりの中で乳児に芽生える自己、そしてその幼児期にかけての発達の变化」、「『養育者一子の安定した関係』をベースに広げる対人関係」「養育者一子の不安定な関係と関係する問題」など、多岐にわたる事柄を含めることのできる課題です。まずは中心となる部分をしっかりとまとめたうえで、関連する部分についても触れてください（あまり手を広げようとすぎないように気を付けて）。なお、課題にて「母子相互作用」と書かずに「養育者一子相互作用」と書いてある意味をよく考えていただければと思います。

旧課題の方は、「5章Ⅱ」における社会性・情緒面の発達の变化」が中心となりますが、「3章Ⅲ」「4章Ⅱ」「9章Ⅲ」なども踏まえる必要があります。

4単位め アドバイス

この課題は「11章」が中心となりますが、「10章」「12章」なども踏まえる必要があります。

人は青年期から成人期にかけて「子どもから大人への移行」を経験します。具体的には「学校という場における学生という役割」が中心だったところから、「社会の中で、職業人（労働者）や地域人（ボランティア、市民活動を行う人）という役割」「家族・家庭という小さな社会で配偶者や親（自

分の子どもに対して)、子ども(自分の親に対して)」をもつなど、個々が選択するライフコースに合わせて様々な役割を同時に持ち、また同時に持つ役割のどれを中心的なものにしていくかということをマネジメントしていくこととなります。その意味で、成人期以降の発達は、各個人の選択に応じて多様なあり方を示すことになり、多方向に進んでいくといえます。

この課題では、そのような成人期について「成人期前期と成人期後期では同じ成人期と言ってもどのようなことに違いがあるのか」ということについて、具体的に言えば成人期前期と成人期後期で発達課題はどのように違うのかということについて整理してまとめてください。また、成人期を説明するためには、その前後の時期について簡単に触れることも有効でしょう。具体的には青年期と成人期前期の違い、成人期後期と老年期の違いについても触れてみてください。

旧教科書の方は、「6章」を中心にレポートをまとめてください。「6章Ⅲ」が特に中心になりますが、「6章Ⅱ」「6章Ⅳ」をどこまでどれだけ取り込むかよく考えてレポートをまとめてください。

■レポート 評価基準

内容の評価以前に、レポートの書き方の問題として、「引用文献の用い方」について十分注意してください。『学習の手引き』6章(2017版4章1節)「『引用』と『要約』のルール」の欄をよく読んで、「どこからどこまでが何からの引用なのか」がはっきりと分かるように書いてください。この点がうやむやであったり明らかな間違いがあったりするレポートは再提出としています。なお「教科書に書いてある文章を一部抜粋してそのまま書く」のは「自分なりの要約」ではなく「引用」となります。

■科目修了試験 評価基準

- 1) 科目修了試験は、教科書全般にわたって出題されます。
- 2) 教科書の内容をしっかりと理解していれば書ける問題です。教科書の中で、重要な意味をもつ言葉(キーワード)が正確に説明できているかが大きな採点のポイントになります。キーワードをよく確認しておきましょう。
- 3) 学んだ概念・キーワードについて、自分及び周りにいる人々の姿・行動から事例として適切なものを選択して回答におこむことができると評価が高まります。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

心理実践力を身につけるため、とくに、「総合的な人間理解力」「批判的・創造的思考に基づく問題発見・解決力」を身につけてほしい。

■参考図書

- 1) 平山諭・鈴木隆男編著『発達心理学の基礎Ⅰ ライフサイクル』ミネルヴァ書房、1994年 *旧教科書
- 2) 平山諭・鈴木隆男編著『発達心理学の基礎Ⅱ 機能の発達』ミネルヴァ書房、1994年
- 3) 無藤隆・やまだようこ編『生涯発達心理学とは何か一理論と方法』(講座生涯発達心理学1)金子書房、1995年

- 4) 本郷一夫編『シートブック 発達心理学 保育・教育に活かす子どもの理解』建帛社, 2007年
- 5) 無藤隆・岡本祐子・大坪治彦編『よくわかる発達心理学(第2版)』ミネルヴァ書房, 2009年
- 6) 無藤隆・中坪史典・西山修編著『新・プリマーズ 発達心理学』ミネルヴァ書房, 2010年
- 7) 無藤隆・子安増生編著『発達心理学』東京大学出版会, 2011年
- 8) 氏家達夫・陳省仁著『発達心理学概論』放送大学教育振興会, 2011年
- 9) 二宮克美・大野木裕明・宮沢秀次編『ガイドライン 生涯発達心理学(第2版)』ナカニシヤ出版, 2012年
- 10) 岡本祐子・深瀬裕子編著『エピソードでつかむ生涯発達心理学』ミネルヴァ書房, 2013年
- 11) 高橋一公・中川佳子編著『生涯発達心理学15講』北大路書房, 2014年